環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.48
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043−246-2180
FAX 043−246-6969

第２回「印旛沼流域フォーラム」開催

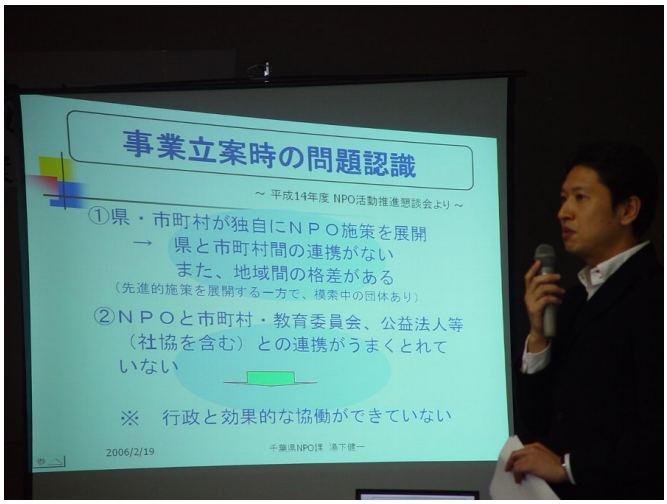
環パちばでは17年度も主な事業として「印旛沼をきれいにする活動」を展開してきました。
夏休みの初めには親子で屋形船から印旛沼をよく見ました。印旛沼流域では水質調査、生き物調べ、ゴミ拾いなど親子体験活動を展開しました。10月には体験活動の報告会「印旛沼子ども会議」、11 月には印旛沼浄化に向けて広く啓発するための「花見川から印旛沼へのエコウオーキング」を開催しました。

これらの活動を通して出てきた問題点や今後の展開のため、2月19日（日）第2回「印旛沼流域フォーラム」を志津コミュニティセンターにて、午後1時から5時まで開催しました。参加者は流域で活動している「耕さない田んぼの会」、「エンジョイ INBA」、「八千代オイコス」、「エコマインド生」、「佐倉市民ネットワーク」、当会の活動に参加された「千葉工大環境生命学科生」、「ガールスカウト」、「八千代市ほたるの里づくり実行委員会」、「千葉県河川計画課」、「千葉県NPO活動推進課」、「八千代市環境保全課」など、約30名の参加がありました。

まず、下水道普及により河川の水質が改善されているものの、河川に近い方々への下水道普及はなかなか進みません。そして、ここには浄化槽の問題があります。台所から印旛沼を考える場として、藤村葉子さん（千葉県環境研究センター）から「生活排水と浄化槽」について学びました。単独処理浄化槽への転換、合併処理浄化槽の普及と補助金・維持管理の重要性など課題が多いです。また、歯磨き剤などに含まれるリン酸水素カルシウムへ藤村さんは警鐘を鳴らしていらっしゃいます。わずかな量の歯磨き剤ですが、早急の対応をお願いしたいものです。また、八千代市環境保全課の関さんに、八千代市内の浄化槽整備状況について報告していただきました。浄化槽設置、維持管理については、実態が把握できず、今後の大きな課題になっています。ここでは、市と市民と協働での取組みが可能か？検討していきたいです。

また、話題提供として、当会の「印旛沼をきれいにする活動」、「地域での取り組」として水質調査を始めた鎌ヶ谷水を考える会、「大学の取り組み」としてエコウォーキングに参加した大学生、「エコマインド生の取り組み」として生活排水に係わるアンケート調査、「協働の取り組み」として「17年度共に築く事業、印旛沼あっぷ」を県ＮＰＯ課より報告していただきました。

意見交換会では、コーディネーターを本橋敬之助（印旛沼環境基金）さんにお願いしました。参加者からは、「親水の場作り」、「環境教育」、「楽



しく参加活動すると継続する」、「滋賀県から転居してきたが、合成洗剤を使用しているのに驚いた」、「ガソリンスタンド等での車の洗車処理水が気になる」などの意見がありました。

また、若い人の参加を促す為や環境学習の場として考えたいと、学生さんの意見を聞きました。学生さんからは、エコウォーキングに参加したことが、「広い視野に立ち考える事ができた」、「身近に住んでいる所がどういう所か知る事ができた」、「体験することの大切さ」、「強制的に環境を学ぶ場があっても良いのでは？」、「環境に関心の無い若者にも参加した経験を伝えていきたい」など、頼もしい意見が出ました。印旛沼浄化に向けて個人での取り組み、協働での取り組みなど、今後も「印旛沼流域フォーラム」を継続していきましょうと次回の開催を約束しました。

(文責　桑波田　和子)

感想を聞いてみました！

第２回印旛沼流域フォーラム・エコウォーキングに参加して

流域フォーラムに参加して、環境をきれいなものにしようという熱意に触れました。私達にできることは、普段の生活の中で「環境」についてもっと興味を持つことだと感じます。大学で環境問題について学んでいる学生との意見交換はありますが、実際に行動している人と話をすることはありませんでした。今後大学で得た知識や野外での活動を少しでもいかしていきたいと思います。　（富田さん）

印象に残ったことは、環境課題解決の手法を提案された側にいかに受け入れてもらうか、環境負荷要因が本当に正しいかをどうやって検討していくかです。環境汚染を引き起こす原因をなくすことは必要です。そこに規制をかけることが本当の解決策になるのか？皆で環境について考え、理解し「一緒に改善していく」という根本を見逃していることに気づきました。エコウオーキングに参加し自然のよさを体験しました。
良さを知ることからこそ、大事にしていこうという意識につながると思います。　（浅野さん）

17年11月30日「花見川から印旛沼までのエコウオーキング」に千葉工大工学部生命環境科学科の学生18 名が参加されました。この体験を基に流域フォーラムに参加４名の方(抜粋)のレポートを紹介します。
千葉工大の　滝先生に感謝いたします。

河川や湖沼の環境を改善する為に大切な事は、その地域で生活をしている人々が環境にもっと関心を持つことと思います。他人事になりがちで、身近に起こっていても遠くの出来事のように感じている人が多いのではないだろうか？環境悪化を知っている人が、知らない人にエコウオーキングなどを通じて伝え、一緒に考えていく事だと思います。実際に歩いたことは、テレビや新聞等の情報として与えられただけでは解らないことでした。
（張替さん）

エコウオーキング、流域フォーラムに参加して感じたことは見る・考える・発言する、ということが大事であるということです。体験することで環境について学ぶ意義を再確認し、発言することでは、日頃から自分の考えや知識などをまとめておくことの大切さも学びました。また、若い世代、とくに中高生に参加してもらいたいと思います。自然について、見る・考える・話すことが身につくようになれば、将来の環境も変わってくるのではないでしょうか。　（坂本さん）

ＮＰＯ公募型事業「印旛沼あっぷモデル事業 2006」がスタート！

千葉県ＮＰＯ活動推進課　湯下健一

２００６年４月。いよいよ印旛沼あっぷモデル事業がスタート。「あっぷ事業」とは、西印旛沼流域４市（船橋市、白井市、八千代市、佐倉市）で印旛沼と流域河川の水質浄化に取り組む千葉県モデル事業の通称で、正式な事業名は「ＮＰＯ主体の新たなまちづくり事業」。

「ちょっと待って。あっぷ？新たな？　いったい何がスタートするの」　このような疑問にお答えできるように、まず千葉県がなぜこの事業をスタートしたのかをお話したいと思います。

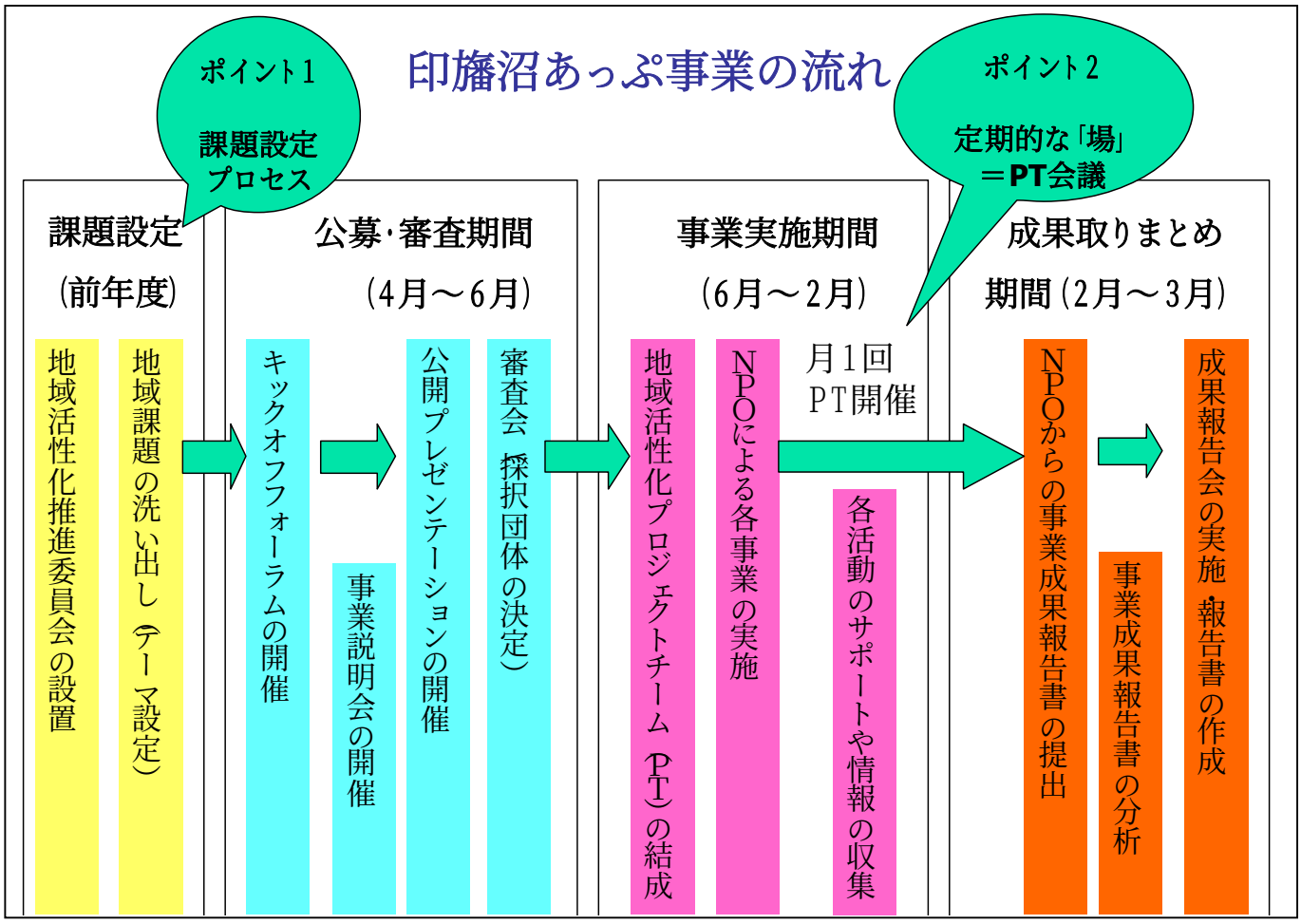
４年前。ＮＰＯ立県千葉の実現を目指した取り組みは、ＮＰＯ活動推進指針作りからスタートしました。この指針作りの過程で浮かび上がってきたのが、「県、市町村の施策がばらばらだと現場が混乱する」、「ＮＰＯと市町村、教育委員会や社協などとの関係作りが進まない」という大きな課題。

では、どこにボトルネックがあるのか。どうすれば一歩進むことができるのか。「地域資源」と「多主体の関係作り」をキーワードに、県・市町村連携で取り組もうとしたのがこのモデル事業です。

図１が「あっぷ事業」の大まかな流れです。ポイントは２点。課題設定プロセスとプロジェクトチーム会議の仕組みにあります。従来の公募型事業は、行政が一方的に課題設定することが多かったと思います。「あっぷ事業」では、ＮＰＯ、関係４市、県河川計画課・ＮＰＯ活動推進課が委員会を設置して、印旛沼流域で優先的に取り組む課題を明確化し、その検討結果を受けて公募テーマを設定しています。２点目は、公募採択後の手続きです。従来は、報告書の提出と報告会の開催しかなく、これに対して‘やりっぱなし’という批判がありました。「あっぷ事業」では、各団体が事業を実施しながら、月１回程度会議に参加することが義務付けられます。これがプロジェクトチーム会議です。会議には採択団体のほかに、各市・県行政の担当者や有識者などが参加し、現場から見えてきた具体的な課題を共有、さらにスキルの相互学習が行われることを期待しています。

このモデル事業は、平成 15 年度から取り組んできました。プロジェクトチーム会議を通じて多様な主体間の協働が生まれました。四街道市ではチームが継続化し、課題解決の中核的な役割を担っています。「あっぷ事業」では、それまでのコンサルに代わりＮＰＯ自身が事業全体のコーディネート役を担います。初のチャレンジです。2006 年、西印旛沼流域で何が始まるか。それは、皆さま自身の参加の仕方で決まると言えるかもしれません。多くの皆さまの参加を期待しています。

参考：「あっぷ事業」の詳細は、http://inbanuma.jp



千葉市桜木公民館「エコクッキング」を体験して

千葉県地球温暖化防止活動推進員　内野　英哲

梅の香がほのかに香りだした２月８日千葉市の桜木公民館主催の「エコクッキング講座」が開かれ、講師は環パちばの広田由紀江さん,スタッフとして桑波田さん、平山さんが参加された。

私は普段家では何一つ料理をした事がありませんが、公民館の近くに住んでいることから勉強のためオブザーバーとして男１点でしたが参加させていただいた。

エコクッキングとは最近スローフードという言葉が良く聞かれるようになり、身近な食材で買い物から調理、片付けに至るまで環境に配慮した食生活を言うそうです。この言葉は東京ガスの商標登録ですが、事前に許可を得ていれば使用可能だそうだ。

今回の受講者は当公民館で料理教室などの色々なサークル活動しているメンバーで、２４名が参加し調理場の都合上４グループに別れて実施された。今回のレシピは省エネ煮豚と、その煮汁を利用した味玉子であった。

食材の準備は時間の都合上事前に講師の広田さんが準備されたが、本来は買い物のエコ（ゴミを出さない食材選び、旬の物、マイバック持参）が大切の要素らしい。

まず広告のチラシで作ったゴミ入れ箱が各調理台に置かれ、最後に生ごみの量を測定しどのグループのゴミが少なかったか比較された。

食材の豚肉は１キロ位の分厚い肉のカタマリなので、肉の中まで良く煮込むには１時間位火にかけるらしいが、省エネクッキングは醤油、みりんで約１５分ほど煮込み、発泡スチロールの箱にその鍋をいれ蓋をして１時間保温しておけばなんと肉はジューシーとなるという、まさに燃料の節約レシピであれの食器洗いの前に、新聞紙や布きれで汚れを落としてから洗うと水道も節約、お椀いっぱいの味噌汁を捨て保温している間に副食材の料理の準備をしたり、リオサミットでのカナダの少女のビデオを鑑賞し、講師から節約レシピやエコ技の紹介をされた。食器洗いで排水を汚さない方法として、水切りネットの種類（市販ネット、紙製、パンストなど）で米ぬかのろ過水がどの材料が一番透明になるかを比較実験された。おコメは無洗米を使用、また油汚れの食器洗いの前に新聞紙や布切れで汚れを落としてから洗うと水道も節約、お椀いっぱいの味噌汁を捨てると

魚がすめるまできれいな水にするには浴槽４杯以上の水が必要ときいたことがあったので、どの家庭も流しの水切りをパンストですると魚も喜ぶのではなかろうかと思った。

いよいよ自分達で作った煮豚料理を試食されたが、肉がとても柔らく味もしみとおっているのに満足されたようであった。また使用した肉汁を他の料理に利用するようゆで卵も持ち帰ってもらった。

最後にソーラークッカー(パラボラ型)を使い太陽熱で沸かしたお湯で(約１時間弱で沸く)お茶を飲んでもらい、自然エネルギー利用が地球温暖化防止に役立つ事が紹介された。

講習終了後私たちも料理のご相伴に預かりましたが、とても肉のなかまで味がしみこんでいて、保温料理は省エネばかりでなく、こんなにおいしくなるかと感嘆した。

3S（RS, GIS, GPS）技術の環境保全への適用

東京情報大学総合情報学部　原慶太郎

先日、大学のプロジェクト研究の一環で中国上海を訪れた。そこで標記のようなセミナーの依頼を受けて講演してきた。ここでいう 3S とはリモートセンシング（RS: Remote Sensing)、地理情報システ

ム（GIS: Geographic Information System)、全地球測位システム（GPS: Global Positioning System）である。この 3S というくくりは、中国ではよく用いられているが、日本ではあまり用いられていないようである。現在、環境研究や環境保全などの分野でこの 3S の技術的発展はめざましく、さらにリモートセンシングやGISデータが整備されるに従って、様々な分野での実利用が急速に進んでいる。

GIS（地理情報システム）

環境問題というのは空間で生じる。したがって、これをコンピュータで処理するとなると、必ず位置情報を付与して現象を扱わなければならない。ここで威力を発揮するのがGISである。最近では携帯電話でデジタル地図を用いたり、カーナビでも利用されているのでおなじみになったが、GIS は単にコンピュータで地図を表示させるだけのものではない。現実の環境は、様々な地形の上に、様々なタイプの植生や土地利用があり、そこに色々な種類の野生生物が生息している。コンピュータではこれらの情報を分けてデータベース化し、地形解析をして傾斜や方位を計算したり、それに生物の分布を重ね併せて相互の関係を解析したり（空間解析)、解析結果を表示したりする。GIS の名前に「情報システム」とあるように、様々な情報をもとに利用者が意思決定を支援する、という重要な役割をもつ。現在も GIS は進化を続けつつあり、とくにインターネットとの融合が大きな意味をもち、WebGIS と呼ばれるインターネットを介したGISの利用が急速に進んでいる。

リモートセンシング（RS）

衛星に搭載したセンサがとらえた電磁波を解析して、地上の構造物や現象を把握する技術がリモートセンシングである。最近では航空機に搭載したセンサで詳細なデータを取得することも増えてきたが、リモートセンシングといえば衛星リモートセンシングが一般的である。1999 年に打ち上げられたTerra/MODIS、Landsat/ETM+、IKONOS という衛星に搭載されたセンサによって衛星リモートセンシングにおける３つの分解能、すなわち空間分解能、時間分解能、分光分解能、が向上し、環境分野への適用範囲が拡大しつつある。高分解能衛星データIKONOSでは、空間分可能が向上し、マルチスペクトルデータで４ m、パンクロマチックデータで１ m の分解能が得られている。一方、Landsat ETM+は、それまでの TM のデータ（分解能 30m）に加え、分解能15m の可視・近赤外のパンクロバンドをもつ。さらにTerra と Aqua（2002 年打ち上げ）の MODIS では、１日に概ね各 4 回ずつのデータ取得が可能であり、36 バンドにまで光学的分解能が向上した。これによって、植物の短期間での季節的変動などを抽出できるようになっている。

GPS（全地球測位システム）

GPS は衛星から送信されている電波を受信し、自分の位置（緯度、経度、標高）を表示するシステムである。最近では、この GPS を搭載した携帯電話やカーナビの普及で、GIS よりも一般的な用語となってきた。2000 年に精度劣化が解除されて、高性能のものでは mm 単位の測位まで可能になっている。GPS は野生生物の分布調査などにも用いられ、とくに山岳地などの目標物が少ない地域ではとても便利である。

さて、これらの GIS、リモートセンシング（RS)、GPS の 3S 技術は環境保全にどのように利用されているのだろうか？ 筆者がかかわっている二つのプロジェクトの例を紹介したい。一つは東京情報大学が文科省の助成を受けて実施している学術フロンティアプロジェクトである。2005 年から第２期のプロジェクト「東アジアにおける陸圏と水圏を統合した環境情報システムの研究」が始まった。ここでは、Terra & Aqua/MODIS を受信し、アムール川－オホーツク海と長江（揚子江）－東シナ海という系を対象に、土地被覆、地表面温度、海域の水面温度や生産量などの相互関係を解析し、その結果を WebGIS で公開している。つぎの URL を参照されたい。

http://www.frontier.tuis.ac.jp/modis/frontier/

もう一つは、神奈川県の丹沢大山国定公園の総合調査のプロジェクトである。都市近郊に位置する山岳として毎年大勢の登山客が訪れているが、そのオーバーユースに加え、近年、ブナの枯損やシカの増加による林床植生の単純化などが問題となり、その解決を目指す調査が実施されている。ここでは、通常の生物や無機的環境の調査に加え、情報整備を柱にしている。調査データを GIS データとして格納して調査員間で共有し、リモートセンシングを用いて環境モニタリングを行ない、それらを種々の総合解析に供している。自然環境保全のために 3S 技術が大いに威力を発揮している。ここでは e-Tanzawa という情報ステーションの上で WebGIS による情報の公開と共有を進めている。

http://e-tanzawa.jp/

千葉県は様々な自然環境に関するデータが、報告書などの紙ベースでは揃っている。これを電子化して WebGIS 上で情報を公開し共有することで、問題解決に繋げることができる。千葉の里山のような二次的な自然の管理には、このようなアプローチが欠かせない。3S 技術が身近なものになった現在、早急にそのような活動を支援するシステム作りに取りかかる必要があるものと考える。

エコサロン“宇宙から見た葉県北西部の水環境”岩下佳之教授(日大生産工学部)にお話をお聞きしました。

事業部　荒尾　繁志

地球観測衛星から送られてくる画像の解像度が軍事用で５㎝･･･というお話を伺い信じられなかったのは私だけだろうか。天体望遠鏡のような大掛かりなものならいざ知らず観測衛星に積み込まれていることを考えれば、世の中進んだものだと思うのです。

地球観測衛星を使ってのリモートセンシング技術によって様々な観測が可能になり、情報を地上で受け取り処理することで使用目的は無限に広がります。

撮影された画像を処理し自然環境の変化を追及した画像を使い、印旛沼、東京湾、都会の水環境のお話をしていただいた中で、やはりと思ったのは“緑の力”を復活させることの重要性です。樹木の持つ保水力や根の持つ台地の保持力などを考えると、里山を復活させるときが来たのかなと。

紹介された写真の中に荒廃するアマゾンの熱帯雨林、汚れている河川、アメリカ大陸の砂漠地帯に出来ている農場などなどを見て、そこに生活する人々だけが必要な分の焼畑や伐採で済ませておけば台地に影響を与えないだろうし、大規模な開発をしなくてもと思うのですが、世界規模で高度成長を続けている現在では避けられないことなのでしょうか？

印旛沼の水はある間隔で放流されていますが、放流前後の写真を見て驚きました。印旛沼と東京湾は一体の水系にあるということを確認したのです。東京湾も横須賀あたりでリストリックされているので水の流れが大変少ない河口のようなものですから、印旛沼からの排水（？）が一気に東京湾に流れ込むと、印旛沼の汚濁物（アオコベースの富栄養化物質）が花見川の河口から扇状に広がります。

放流した印旛沼は当然ですが汚濁物がなくなって綺麗な状態になりますが、流入した先の東京湾の生態系や水質にも大きく関与しますので、安易に流すというのも問題があるということです。

印旛沼はダムの役割が非常に大きいため、溜められた水は時間と共に水質が悪化します。その原因は多岐にわたっているのですが、印旛沼の周辺を考えると流域の住民が汚染源と考えてよいのではないでしょうか。確かに農林業なども汚染源になっていますが、絶対量から見れば都市部に住む人のほうが多いのですから、私たち一人一人が水を大切に使い、水を汚さないようにすることが大事です。このような印旛沼の水の現状を正しく知ってもらうためにも、今回のような会にもっとたくさんの方々に集まっていただいていろいろと話が出来ることを願っています。

２００６年のエコメッセは、９月３日開催です！

２００５年９月に第１０回を開催した「エコメッセちば」とは、持続可能な社会の実現をめざして市民・企業・行政のみんなが良好なパートーナージップのもとに協働し開催する環境見本市です。

第１１回からは、名称を「エコメッセ２００６ inちば」と変え、千葉から全国へ向けた発信拠点を目指すことにも力を入れています。

そして環境パートナーシップちばでは、2006年は実行委員会の事務局となって応援します。

子どもも大人もみんなでつくる環境のためのお祭りです。

★エコメッセ2006 in ちば★

日時：2006年9月3日(日)10：00～16：30

場所：幕張メッセ　国際会議場(千葉市美浜区中瀬2－1)

主催：エコメッセ2006 in ちば実行委員会-

参加者募集：概要は、7月の「だより」でお知らせします。

出展者募集　募集区画：150区画　〆切は5月12日(金)

◆ 特に、子どもたちのための楽しく学べる体験型のプログラムをご提供ください。 あるいは、環境情報を分かりやすく解説したものや、環境保全や環境問題解決のための具体活動例のご紹介をお願いします。

行政･企業･市民の各団体のみなさまには、９月３日を県内･国内への発信手段として活用した出展企画をおすすめください、お待ちしています。

なお前日９月２日（土）には、昨年同時開催させていただきました千葉県地球温暖化防止活動推進センターとのコラボレーション（主催は違いますが企画・運営を実行委員が一緒に検討して広報などでもお互いに協働しています）による、併催セミナーも企画中ですので、ご期待ください。あなたも私もちばの環境の輪を広げよう！！

協賛団体：受付中
開催案内：エコメッセ２００６ in ちば http://ecomessechiba.jp/をご覧下さい。
出展・協賛申し込み用紙もＨＰ内よりダウンロードできます。
事務局：「エコメッセ 2006 in ちば」実行委員会事務局
〒260-0024 千葉市中央区中央港 1-11-1
財団法人 千葉県環境財団 環境管理グループ 環境活動推進チーム気付
TEL 携帯 090-7010-8172　　FAX 043-246-6969
E-mail：eco_info@ecomessechiba.jp

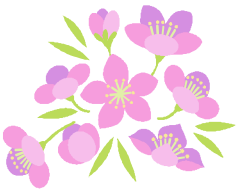
環境パートナーシップちば運営委員会議事録（平成１８年３月分）

日時　平成１８年３月２９日　午後３時３０分～６時１０分　場所　船橋市女性センター

報告事項
１）印旛沼流域フォーラム
２月１９日に開催し、大学生の意見が新鮮でした。
２）環パ便り４８号の編集状況
３）環境再生事業の編集状況
４）１７年度事業報告の作成状況
５）１７年度会計報告の作成状況
６）１８年度事業方針の作成状況
７）１８年度予算
８）その他
大多喜町の菜の花エコフェアに協力した。

検討事項
１）総会準備
・ 開催日：５月１３日　場所　：船橋市女性センター
・ 時間　受付　１時００分
開始　１時３０分
２）環パちば創立１０年記念事業
・記念シンポジウム、フォーラム、
だより５０号までのアーカイブ集など
（総会でワークショップを開催し、検討する）

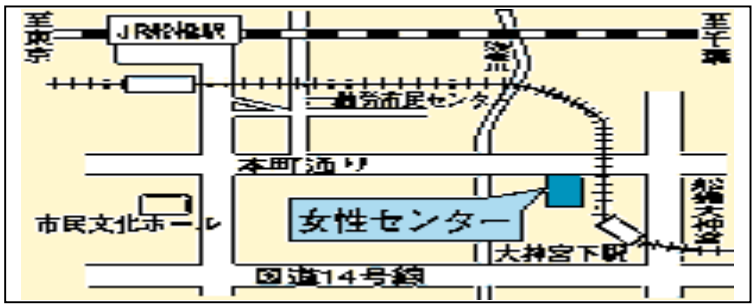
平成 18 年度総会開催のご案内



環境パートナーシップちば代表　加藤賢三

満開の桜とこぶしの花が同時に楽しめる今年の春ですが、会員の皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。「環境パートナーシップちば」は今年 10 年目を歩みます。「協働」、「パートナーシップ」という言葉が定着した感のある昨今、「環境パートナーシップちば」の果たすべき役割が問われています。平成１８年度総会を執り行いますので、ご出席くださいますようご案内を申し上げます。

日時　5 月 13 日(土)　１３：３０～１６：００
場所　船橋市女性センター(Tel 047-423-0757)
内容　第１部　総会
☆平成１７年度事業・会計・会計監査報告
☆平成１８年度事業計画(案)・予算(案)
☆平成１８年度役員改選・新役員紹介
第２部　環パちば創立 10 年記念事業について



第 2 部<環パちば創立 10 年記念事業を考えるワークショップ>ぜひご参加下さい
今年で創立 10 年目を迎える「環境パートナーシップちば」。創立の思いや今までを振り返り、これからの歩みを考えるワークショップを開きます。多くの会員のご意見を頂き、ご一緒に歩みたいと思います。ご意見や提案を、**4 月 30 日**までにいただけると幸いです。

お申し込み先：桑波田
Tel＆Fax：　043-258-5437
E-mail：kuwahatak@hotmail.com

⇒《**交通**》京成線「大神宮下」駅下車徒歩５分
ＪＲ「船橋駅」下車徒歩１２分

◎運営委員・スタッフ部員を募集します！（企画・紙面づくり・運営などに興味のある方）
◎総会の後で、会費制(2000 円程度)の交流会を予定しています。ご参加ください
◎総会および交流会の***ご出席・ご欠席は、同封のはがきにて 4 月 30 日までにご連絡ください。***

お知らせコーナ

★ 第2回ちばし手づくり環境博覧会開催 出展者募集！

日時　：　6月6日(火)　11:00～14：00
会場　：千葉市文化センター(5階)市民サロン
出展料：　無料
募集団体数：30団体(市民、企業)
申し込み締め切り日：　5月12日(厳守)
主催：第2回ちばし環境フェスティバル活動発表実行委員会
問合せ先：千葉市環境調整課温暖化対策室
TEL：043-245-5199

★ケナフ栽培参加者募集

※千葉ケナフの会からのお知らせです
日時：5月21日（9時30分）（少雨決行）
場所：千葉市緑区土気1057　（現地集合）
用意するもの：軍手、長靴、釜（またはシャベル）、手ぬぐい
※　雨天の場合は、5月28日（日）
※　栽培終了後、12時から土気公民館で「ケナフうどん試食会」
申し込み先：千葉ケナフの会(NPO 法人　循環型地球環境保全機構内)
TEL：03-3667-3953　FAX：03-5695-1939
Email:kenaf@kt.rim.or.jp

★　第3回千葉里山フェスティバル「里山シンポジウム」を開催します。

2006テーマ：**「里山とゴミ」**
全体会日時：5月20日(土)
会場：八千代市市民会館　小ホール
分科会：里山のもつ機能を18分科会を、千葉県内市町村において開催します。
主催：里山シンポジウム実行委員会、ちば里山センター、(社)千葉県緑化推進委員会、八千代市、千葉県(予定)。

《全体会》
基調講演：里山を活かす上勝町の戦略
〝彩り産業“とゴミ作戦
星場　眞人(徳島県勝浦郡上勝町)

分科会報告

パネルディスカッション
テーマ「里山に託す私達の未来:里山とゴミ」
大槻幸一郎(千葉県副知事)
井村弘子(残土･産廃問題ネットワーク)
林　秀一(市原市古敷谷在住)
星場眞人（徳島県勝浦郡上勝町）
プレゼンコーディネーター
藤原寿和(廃棄物処分場問題全国ネットワーク事務局員)

※HP：www.jgoose.jp/satochiba をご覧下さい

広報部より

1 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2 ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/
3 **環パだより広報部員募集**
年６回発行する「環パだより」を作る仲間を募集します。あなたも一緒に「だより」を作りませんか？
・編集会議は、主にメールで行います。
・文章を書くのが好きな人、歓迎です！
担　当：広田由紀江
Tel&fax：047-381-8163
Mail：　hirotayukipon@icom.home.ne.jp

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境管理グループ環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞ 入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		